

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670102534
法人名	有限会社 いこいの広場
事業所名	グループホーム いこいの広場
訪問調査日	平成22年1月18日
評価確定日	平成22年2月24日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4670102534
法人名	有限会社 いこいの広場
事業所名	グループホーム いこいの広場
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上4丁目4-33 (電話) 099-210-8230

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年1月18日	評価確定日	平成22年2月24日

【情報提供票より】(21年12月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 1,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000	円	

(4) 利用者の概要(12月28日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84.8歳	最低 69歳	最高 97歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂之上生協クリニック 坂之上病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の閑静な住宅地の一角にありながら、当ホームの名称どおり、「いこいの広場」的雰囲気を持つホームである。民家を改装し2階が管理者の住まい、1階がグループホームとして利用、ホーム自体が地域に溶け込み、利用者、職員が家族として生活している。利用者の意向を汲み取り、役割を持って楽しく暮らせるよう、利用者主体のケアに力を入れ支援している。ホーム内の造りが、リビング、全居室からウッドデッキに出ることができ、車椅子の利用者も安全に、自由に花壇や菜園の管理が出来るよう工夫されている。病院、買い物など交通の利便性にも恵まれ、看護師資格者の職員が3名おり、管理者も2階に居住していることで、職員は安心して勤務できる体制にある。開設当初から家族や地域交流を大切に運営がなされ、今日、地域に貢献するグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善すべき課題はなかったが常により良いケアを目指し取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価はケアの見直し、改善出来る機会と捉え、項目別に職員全員で自己評価をつくりあげている。外部評価の結果は玄関に置いて閲覧できる状態にしている。運営推進会議でも改善点などを報告し、話し合いを持っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会長、婦人会長、近隣住民、家族、利用者、職員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。会議はホームの取り組みや意見交換の場になっている。地域の行事や高齢者の情報を得、ともに解決策を話し合い、地域貢献に繋がる会議にもなっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に事業所窓口と行政窓口、第三者委員を明記している。家族の面会時や電話連絡時に、また行事の後に家族会を持ち家族の意見が引き出せるよう配慮している。出された要望や意見は管理者、職員で話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域との交流を密にしている。近隣者は普段から気軽に挨拶したり、声を掛け合っている。住民はホームのことを理解し、日常的に野菜などの差し入れがあり、利用者は新鮮な食材の食事に喜んでいる。地域行事への参加やボランティアの訪問、保育園運動会の見学など交流がきている。また、町内会の会合の場で高齢者介護についての講話、アドバイスなども行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域との交流の大切さを認識し、職員全員で作らあげた理念である。地域交流をキーポイントに利用者がその人らしく地域の中で過ごせるよう、取り組んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や広間に理念を掲示している。管理者は職員会議や日々の支援の中で理念をもとに話をし、理念の共有化を図っている。パンフレット、ホーム便り、行事予定表にも理念を明記し、啓発を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域との交流を密にしている。近隣者とは普段から気軽に挨拶したり声を掛け合っている。日常的に野菜などの差し入れもある。地域行事への参加やボランティアの訪問、保育園運動会の見学など交流できている。また、町内会の会合の場で高齢者介護について講話、アドバイスなども行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでいる。自己評価や外部評価は原点にかえり、改善出来る機会になっている。外部評価の結果は玄関に置いて閲覧できる状態にしている。運営推進会議でも改善点の報告をし、話し合いをもっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、婦人会長、家族、地域住民、職員、利用者の参加を得て2か月に1回開催している。全家族や地域の方に参加の声掛けをし、幅広い意見がもらえるよう工夫している。ホームの取り組みの報告や参加者の意見交換の場になっている。地域の行事や高齢者情報を得てともに解決策を話し合い、地域貢献に繋がる会議にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者を定期的に訪問し、相談や助言をもらったりし連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホーム便り、行事予定表とともに状況報告も書き添え発送している。遠方の家族には電話での報告も行っている。職員紹介はホーム便りで写真とコメントを掲載している。個々の金銭出納帳を作成し、面会時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所窓口と行政窓口、第三者委員を明記している。家族の面会時や電話連絡時に、また行事の後家族会をもち、家族の意見が引き出せるよう配慮している。出された要望や意見は管理者、職員で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さを理解し、異動などを最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合は職員同士連携を図りながら、利用者個々に応じた配慮を心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が資格や経験・希望に応じた外部研修に最低年1回は参加している。参加者は職員会議で研修報告をし、情報の共有化を図っている。毎月、ホーム内研修を実施している。資格取得に対する支援体制もありレベルアップに繋がる支援ができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入し、管理者や職員は研修や意見交換、相互訪問交流を図り、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅や病院などに出向き面談し、利用者・家族にホーム見学をしてもらい利用者同士の交流や場の雰囲気になじんでもらっている。「利用者・家族の納得した上での入居」を原則としている。入居後は利用者や家族と相談しながら安心した気持ちでサービスが受けられるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活をともにする「家族」であることを基本にしている。利用者から調理や菜園の知識を学んだり、大根干し、ラッキョウ漬け、掃除、洗濯物たたみなど一緒に実践し、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在は会話での意思疎通が出来る利用者が大半で日常的に利用者の思いや意向を聞くよう、傾聴に力を入れている。意向を伝えることが困難な利用者には職員間で情報を共有し、利用者にとって何が一番いいか、利用者の立場になって利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の情報提供表、利用者・家族の意向、かかりつけ医の意見や職員間での話し合いを基に個々に応じた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6ヵ月毎)な見直しをしている。日々の状況を把握し、3ヵ月毎のモニタリングや評価をしている。心身の状況変化に応じ、随時利用者・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や自宅訪問、墓参り、買いものなどの外出支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の納得するかかりつけ医の受診ができています。心身の変化がある時はいつでも受診や往診できる体制ができています。また、ホームに看護師が常勤しており、利用者の健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約書に方針を明記、説明し同意をもらっている。利用者の状況に応じ、利用者・家族・医療機関・職員と随時話し合い、対応方針を共有している。過去に看取りを行った経験もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で事例を検討したりし、自尊心を傷つけない対応を心がけている。職員採用時の個人情報保護についての誓約書もとっている。ホーム便りの写真掲載についても同意をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭内で生活していることを基本に、利用者一人ひとりの生活リズムを考慮しながら利用者の意向、状況に応じて個々のペースを大切にした柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は調理の手伝い、茶碗洗い、片付けなど職員と一緒にやっている。食材の差し入れや採ってきた菜園の野菜をメニューに加えたり、おでん、おなべを囲んだりして半介助、見守り、談話しながら食事を楽しむ支援を実践している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、回数は決めてないが利用者は最低週3回の入浴支援を受けている。希望があれば毎日でも可能である。一人ひとりゆっくり入浴できるように配慮している。異性介助を嫌う利用者には同姓介助で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園での野菜作り、新聞や雑誌を読んだり、ベランダでの日光浴、買い物に行くなど楽しみの支援をしている。毎月の外出プラン(初詣、花見、みかん狩りなど)を立て、外出の機会を作り気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩やドライブ、買いもの、公園でのお茶飲みなどに外出している。ウッドデッキを活用し、食事やお茶、日光浴を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけないケアを実践している。外出時はさりげなくついて行ったり、また、ドライブに誘ったりして落ち着くまで見守りを行っている。交番には利用者の情報を提供し、連携を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと昼夜の訓練を定期的に行っている。近隣者にも協力依頼をしている。非常時の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状況に応じ、食事、水分摂取量の把握、きざみ、粥など食事形態も工夫している。協力病院の栄養士から栄養バランスなどのアドバイスももらっている。月1回、体重測定も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は光や音に配慮している。ソファの配置の工夫や畳の間や家具、装飾品など温かい家庭的な雰囲気がある。空気清浄機、加湿器を置いて乾燥対策ができています。ウッドデッキに直接出られるので閉塞感を感じない造りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングと和室の居室があり、利用者の希望に応じて対応している。居室の表札は竹を使用した手作りであり、窓もはき出し窓で開放感がある。テレビ、タンス、時計、家族の写真、本人の似顔絵などが飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		